

幸南の風



令和4年6月15日 校長 伊藤 公一 第5号

人が生きる意味

人が生きる意味は、人と人、人とももの、人と出来事の中に生まれる。あなたがいて、あなたと関わることで、私の生きる意味が見えてきて、自分が生きる意味のある存在になっていく。大切にしたい人やもの、ことに会い、それらを大切にすることで、生きる意味が生まれてくる。生きる意味などないと思ってしまうときがあったら、人やもの、ことと関わってみてくれ。関わらざるを得ない環境に自分を放り込んでみてくれ。そうすれば、時間がかかるかもしれないが、生きる意味を感じられるようになるだろう。

(東京医療学院大学前学長 関根郁夫)

修学旅行



6月7日(火)～8日(水)、会津若松へ修学旅行に行ってきました。7日の午前3時前、私のメールに「仙台市に土砂災害警報が出され、避難所開設準備を」という内容のメールが教育委員会からきました。本校は大雨の場合は、避難所開設はしないことになっていますが、修学旅行に行くことができるのか、大変心配しました。学校に6時前に到着し、予定通り7時20分に出発しました。しかし、東北自動車道が白石インターと国見インターの間が雨のため、通行止めになっていて4号線に降りて、再び高速道路に乗ることになり、計画より1時間遅れで鶴ヶ城に着きました。11時自主研修が始まり、子どもたちが立てた計画通りには行かなくなってしまいました。16時の集合時間ま

で小雨が降ったり止んだりの中、グループ活動が行われました。飯盛山では楽しみにしていた「おみやげ」を買い、宿泊は、東山グランドホテルでした。夕食をとり、お風呂に入り、10時には就寝、疲れたので、ぐっすり休むことができました。2日目は、日新館→裏磐梯五色沼→野口英夫記念館と周り、最後はラーメン館でバイキング、食べ放題を堪能しました。大きな怪我もなく熱を出す児童もなく、天気だけはあまりよくありませんでしたが、無事予定の時間に学校に帰着しました。今回の修学旅行、雨にはたたられましたが、みんな思い出に残る修学旅行になったと思います。一つ残念だったのは、「磐梯山」が見られなかったことです。ぜひ、子どもたちには天気のいい中で、表磐梯と裏磐梯を見てほしいと思います。

幸南小の歴史2【校章】

校章は、当時のさいわい幼稚園園長だった高橋武男氏がデザインしました。幸町小学校の当時の校長先生 片桐秀夫先生から高橋氏への御礼の手紙の写しが残っています。黄色の輪は、太陽の恵みを受けて活動し、明るく円満な人間になるよう。4つの緑は、仲良く助け合って幸せになるように。中心の「南」は、校名の「幸」と「南」を重ねたもの。純粋な心(白)で情熱(赤)を傾けて学ぶ小学生になるように。という願いが込められています。